

令和 3 年 2 月 22 日

教 育 長 様

研究コース
グループ研究B
校 園 コード (代表者校 園 の市費コード)
661456
選定番号
B225

代表者	校 園 名 :	大阪市立今里小学校
	校 園 長 名 :	山口 祐子
	電 話 :	06-6981-8800
	事務職員名 :	栗田 有加
申請者	校 園 名 :	大阪市立今里小学校
	職 名 ・ 名 前 :	首席 田原 健之介
	電 話 :	06-6981-8800

## 令和 2 年度 「がんばる先生支援」研究支援 報告書

◇令和 2 年度「がんばる先生支援」研究支援について、次のとおり報告します。

1	研究コース	コース名	グループ研究B	研究年数	新規研究 (1 年目)
2	研究テーマ	<b>中学校進学を視野に入れた情報活用能力の育成 ～小小連携を通して育まれる統一された情報活用能力育成スタイル～</b>			
3	研究目的	<p>本年度本格実施された新学習指導要領では、情報活用能力が学習の基盤となる資質・能力として必須のものとされているが、現在の学校現場では、教員の指導力や教具（プログラミング用ロボット等）の差が大きく、また、プログラミング教育を始めとした情報教育への取り組み、到達度も各校あるいは指導者で差異があるのが現状である。</p> <p>そこで本研究では、同じ中学校を進学先にもつ隣接小学校との小小連携を通して、共同研究や共同研修を行い各校同じ到達度を目指す。</p> <p>○各校各学年に応じた「情報活用能力到達目標一覧表」にもとづく情報活用能力育成  ○3校統一の授業によるICT機器操作スキルを育成  ○共通教材を活用したプログラミング教育の実践  ○合同研修・研究会による教員のICT活用指導力の向上</p>			
4	取り組んだ研究内容	<p>いつ、何のために、どのようなことを実施したのかを具体的に記載してください。 (MSゴシック 10ポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・3校合同研究推進委員会 (6月)</li> <li>・ICT機器環境整備、プログラミング教材整備 (7～12月)</li> <li>・今里小研究発表会への参加 (1月)</li> <li>・3校合同研究全体会 (2月)</li> <li>・ICT支援員によるICT活用授業支援 (7～2月)</li> </ul> <p>～今里小学校～</p> <p>○ICT推進リーダーによる中本小学校でのプログラミング授業  ⇒5年算数科「正多角形と円」の単元で、スクラッチを活用した授業  ⇒6年理科「電気の利用」の単元で、マイクロビットを活用した授業  ⇒オンライン会議アプリを活用した遠隔授業の実施</p> <p>○東中本小学校との共同授業開発  ⇒4年国語科「調べたことをほうこくしよう」の単元で、単元計画・指導案作成・授業実践等を共同して行った。  ⇒オンライン会議アプリを活用した遠隔交流の実施</p> <p>～東中本小学校～</p> <p>○東中本小学校の「情報活用能力到達目標一覧表」にもとづく情報活用能力育成  ○「書画カメラ等のICT機器の充実」を生かす各学年の取り組み  ○「ICT支援員の派遣実施」に伴う学びのひろがり  ○共通教材を活用したプログラミング教育の実践 (予定)  ○今里 (東中本小学校) との共同授業開発</p> <p>～中本小学校～</p> <p>○書画カメラの活用  ・WEBスクリーンと併用・書き込みしながらの指導・細かい手元の作業撮影・ノート提示</p> <p>○ICT支援員の来校支援  ・全学年に対応・授業補助・機器準備・整備・家庭での双方向通信練習等</p> <p>○ICT推進リーダーによるプログラミング授業の実施  ・5年算数「正多角形と円」スクラッチ活用 (来校指導とオンライン会議アプリ活用のリモート授業)  ・6年理科「電気の利用」 マイクロビット活用 (来校指導)</p>			

5	成果・課題	<p>大阪市教育振興基本計画に示されている、<u>子どもの心豊かに力強く生き抜き未来を切り開く力の向上</u>および<u>教員の資質や指導力の向上</u>について、申請書に記載した検証方法から得られた結果と、それらからの結果に基づいた考察を、具体的に記載してください。</p> <p>【見込まれる成果１】 3校の児童の情報活用能力の向上</p> <p>《検証方法》 児童に対し情報活用能力チェックリストを年度当初、年度末に実施し、3校の平均ポイントを10%向上させる。</p> <p>〔検証結果と考察〕 大阪市小学校教育研究会視聴覚部が作成した「情報活用能力チェックリスト」を1学期から3学期に実施。各校各学年の肯定的な回答の平均値は以下の通り向上した。 1年：59.6%⇒83.6%      2年：70.1%⇒81.6%      3年：62.3%⇒86.6% 4年：75.2%⇒83.2%      5年：64.8%⇒81.2%      6年：73.0%⇒84.5% 肯定的な回答が80%未満の項目も以下の通り改善した。 1年(8項目中)：6項目⇒2項目      2年(8項目中)：6項目⇒2項目 3年(12項目中)：12項目⇒1項目      4年(18項目中)：11項目⇒5項目 5年(24項目中)：21項目⇒12項目      6年(21項目中)：15項目⇒2項目</p> <p>【見込まれる成果２】 3校の教員の情報教育に対する授業力の向上</p> <p>《検証方法》 教員に対し年度当初、年度末にアンケートを実施し、「授業にＩＣＴを進んで活用している」「児童がタブレット端末を活用する授業に取り組んでいる」などの項目で肯定的な意見を80%以上にする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 「授業中にＩＣＴを進んで活用している」 80.0% ⇒ 100% 「児童がタブレット端末を活用する授業に取り組んでいる」 38.2% ⇒ 86.0%</p> <p>【見込まれる成果３】 3校の教員の情報教育に対する授業力の向上</p> <p>《検証方法》 教員のＩＣＴ活用指導力アンケート（文科省「学校情報化調査」）において、総合平均ポイントが3.3以上となるようにする。</p> <p>〔検証結果と考察〕 教員のＩＣＴ活用指導力アンケート総合平均ポイント 1学期：2.54 ⇒ 3学期：3.32 「児童が自分の考えをワープロソフトで文章にまとめたり、調べたことを表計算ソフトで表や図などにまとめたりすることを指導していますか？」「児童が発信する情報や情報社会での行動に責任を持ち、相手のことを考えた情報のやりとりができるように指導していますか？」という項目で1ポイント以上の向上がみられた。</p> <p>【見込まれる成果４】 3校それぞれのタブレット端末活用率を昨年度より平均で10%向上させる。</p> <p>《検証方法》 大阪市教育センターからの毎月のタブレット活用率をチェックし、各校の目標値をめざす。</p> <p>〔検証結果と考察〕 1学級当たりの平均タブレット活用回数は、 中本小 R1：8.8 ⇒R2：13.4 東中本小 R1：4.2 ⇒R2：7.8 今里小 R1：26.6 ⇒R2：39.7      と各校とも大きく向上した。 各校とも、教員が授業にＩＣＴを活用することの効果と必要性を実感し、ＩＣＴ活用による授業改善への意欲が高まった。</p>
---	-------	---

5	成果・課題	【見込まれる成果5】 《検証方法》 〔検証結果と考察〕				
		【見込まれる成果6】 《検証方法》 〔検証結果と考察〕				
		【研究全体を通じた成果と課題】 具体的に記載してください。 ～3校共通～ ○児童・教員ともにICT機器の使用頻度が向上し、カリキュラムマネジメントや授業改善がみられた。 ○各校で共通の教材を整えることで、環境的に充実した授業が展開できた。 ○ICT支援員の来校回数が増え、ICTを活用した授業のトラブルが減り、教員のスキルアップにつながった。 △3校合同授業等の取り組みを行うには至らなかった。 ～今里小～ ○ICT推進リーダーを中心に、情報活用能力育成のための授業開発を行うことができた。 ○3校で共通の教材を購入し、共有して活用を図ったことで、児童の学習活動において充実した教材数を確保することができた。 △学校間の準備、打合せ等の時間の確保が難しかった。 △新型コロナウイルス感染症の影響で授業時数の確保や進捗の問題があったが、遠隔交流やオンライン授業など、もう少し回数を増やせたらよかった。 ～東中本小～ ○ICT機器の利便性に気づき、広く活用していく動機づけになった。また、実際の使用が広まり授業での活用が行われた。 ○学校を超えた児童・教員間の今後につながる交流の機会が生まれた。交流を通じて、学びにおける時間・距離などの制約を取り払う学習活動の大切さに気付くきっかけとなった。 △教員一人ひとりが、ICTを活用するために養成・研修全体を通じて、必要な資質・能力を身に付けていく必要がある。 △一人一台パソコンを児童が「文房具」として自由に活用できるようにした、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善を考えていかなければならない。 ～中本小～ ○きめ細やかな指導ができたことで、苦手感をもつことなく楽しみながら技術を向上できた。 ○環境が整うことで、学習意欲が高まり、集中して取り組む様子が見られた。 ○情報活用能力全般の能力向上につながっている。 △指導技術の向上と、実態に即した指導計画の見直し △低学年におけるリモートの活用				
6	研究発表等の日程・場所・参加者数	《代表校園長の総評》 ICT活用について先行している今里小学校が推進役を担い、ICT活用・機器環境整備についての情報提供や支援を行うことで、小小連携での児童の情報活用能力育成、教員のICT活用指導力の向上に大きく成果を上げることができた。1人1台学習者用端末が整備され、教科の授業でのさらなる活用実践が求められている。遠隔合同授業や共同での授業研究等、本研究を継続発展させ、小小連携も深めていきたいと考える。				
		研究発表等を実施した日・場所・参加者数を記載してください。				
		日程	令和 3 年 2 月 19 日		参加者数	約 25 名
		場所	3校および講師のオンライン			
	備考	3校での研究全体会とし、誌面発表にまとめる				

教 育 長 様

研究コース	
グループ研究B	
校園コード (代表者校園の市費コード)	
661456	
選定番号	B225

代表者	校 園 名 :	大阪市立今里小学校
	校園長名 :	山口 祐子
	電 話 :	06-6981-8800
	事務職員名 :	栗田 有加
申請者	校 園 名 :	大阪市立今里小学校
	職名・名前 :	首席 田原 健之介
	電 話 :	06-6981-8800

## 令和2年度 「がんばる先生支援」研究支援 経費執行使途報告書

◇「がんばる先生支援」として、経費を次のとおり報告します。

研究テーマ	中学校進学を視野に入れた情報活用能力の育成 ～小小連携を通して育まれる統一された情報活用能力育成スタイル～
-------	--

費 目		金 額	備 考
8 旅費	5 普通旅費		
教育センターでの経費執行		計	①
7 報償費	1 報償金	346,680	
10 需用費	1 消耗品費	253,230	
	4 印刷製本費		
11 役務費	1 通信運搬費		
	5 筆耕翻訳料		
13 使用料及賃借料	1 使用料		
17 備品購入費	2 校用器具費		
	3 図書購入費		
18 負担金、補助金及交付金	5 会費		
学校での経費執行		計	599,910 ②
合 計		599,910	①+②

研究活動にあたって、どのような目的で、どのような物品を購入したのか、主なものを記述すること。また、経費執行における申請時からの主な変更点を記述すること。

日常的なICT活用授業のために、書画カメラ、HDMIケーブル等を購入した。必要に応じて、マイクを追加購入した。

# 内訳明細

( R02 様式 5-2 )

研究コース

グループ研究B

選定番号

B225

代表校園

大阪市立今里小学校

校園長名

山口 祐子

費 目	内 容	数量	単 価	金 額	実施月
8 - 5 普通旅費					
	費 目 小 計				
7 - 1 報償金	研究会講師（大学教授）	1	16,420	16,420	
	研究会講師（大学教授）	1	3,100	3,100	
	研究会講師（大学教授）	1	9,300	9,300	
	I C T活用授業講師	30	10,360	310,800	
	I C T活用授業講師	1	7,060	7,060	
	費 目 小 計			346,680	
10 - 1 消耗品費	書画カメラ	6	29,990	179,940	
	書画カメラ	1	29,900	29,900	
	HDMIケーブル	2	3,800	7,600	
	スピーカーマイク	1	33,000	33,000	
	HDMI中継アダプタ	3	930	2,790	
	費 目 小 計			253,230	
10 - 4 印刷製本費					
	費 目 小 計				
11 - 1 通信運搬費					
	費 目 小 計				
11 - 5 筆耕翻訳料					
	費 目 小 計				
13 - 1 使用料					
	費 目 小 計				
17 - 2 校用器具費					
	費 目 小 計				
17 - 3 図書購入費					
	費 目 小 計				
18 - 5 会費					
	費 目 小 計				
合 計				599,910	